

2024年度 北海道有朋高等学校 通信制課程 シラバス	【科 目】 音楽Ⅰ	単位数 : 2単位
教科書 : Tutti+ (教育出版)		
学習書 : 有 ・ 無	入門書 : 有 ・ 無	補助教材 : 有 ・ 無
試験 : 実技1回、筆記1回	報告課題 : 全6回	最低面接時間数 : 8時間

1 学習の到達目標

報告課題、面接指導における学びの中から音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を身に付けましょう。

2 科目の特色

中学校音楽科の学習を基礎として、基本的な楽典、音楽の歴史、日本や世界の様々な音楽について学びます。

3 評価の観点・方法（年間の評価）

①評価の観点（評価は次の3つの観点から行います）

知識・技能	基本的な楽典、音楽の歴史、日本や世界の様々な音楽について理解を深めているか。
思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚しているか。またその知覚に基づいた表現意図を持っているか。
主体的に学習に取り組む態度	計画的な学習の実践に意欲的に取り組んでいるか。

②評価方法

- 「知識・技能」 : 主として報告課題の評点平均をもとに評価します。
「思考・判断・表現」 : 主として中間試験・終末試験の評点をもとに評価します。
「主体的に学習に取り組む態度」 : 報告課題の提出状況をもとに評価します。

4 年間学習計画

報告課題・試験	単元名（指導内容）	提出期間
第1回	五線譜とは・音部記号と音の高さ、西洋音楽史（古代、中世）、日本音楽史（古代）、音符と休符（その1）	5. 1 ~ 5.22
第2回	音符と休符（その2）、音符と休符（その3）、発という大切な楽器、日本音楽史（中世、近世）、西洋音楽史（ルネサンス、バロック）	6.19 ~ 6.28
第3回	音符と休符（その4）、拍子と拍子記号（その1）、日本音楽史（近世）、西洋音楽史（古典派、ロマン派）、強弱記号	7.21 ~ 7.30
第4回	拍子と拍子記号（その2）、西洋音楽史（近代・現代）、私たちの郷土の音楽、実技試験曲、	9.20 ~ 9.29
第5回	拍子と拍子記号（その3）、世界の声の音楽・楽器の音楽、拍子記号と音符・休符、	11.12 ~ 11.21
第6回	音楽用語・記号、譜表、楽器の分類、反復記号	1. 6 ~ 1.15
中間試験	実技試験（教科書P.28「野ばら」の歌唱）です。	
終末試験	「通教Y U H O第3号」に試験範囲・要点を掲載します。	

5 学習のすすめかた

- 報告課題は自学自習によって解答にたどり着くことができるように作成してあります。教科書と解説をよく読んで取り組みましょう。
- 2023年度より報告課題の提出状況が評定に反映されるようになりました。定められた期間内に提出することには大きな意味があります。
- 音楽は本来、紙面だけで学ぶものではありません。自ら様々な音楽に耳を傾け、ときには歌ったり、楽器を奏で楽しむ機会を大切にしてください。面接指導には最低面接時間数にかかわらず、できるだけ多く出席することが望ましいです。

2024年度 北海道有朋高等学校 通信制課程 シラバス		【科目】 音楽Ⅱ	
単位数：2単位	教科書：音楽Ⅱ Tutti Plus（教育出版）	学習書・入門書・補助教材：有・ ☐	
試験：2回	報告課題：6回	最低面接時間：8時間	

1 学習の到達目標

報告課題、面接指導を通して音楽的な見方・考え方を働かせ、日常生活や社会の中の音や音楽、音楽文化や歴史と幅広く関わる資質や能力を身につける。

2 科目の特色

中学校音楽科や音楽Ⅰの学習を基礎として、楽譜を読み解く基本的な楽典、音楽の文化や歴史、日本や諸外国の様々な音楽について学ぶ。

3 評価の観点・方法（年間の評価）

①評価の観点（評価は次の3つの観点から行います）

知識・技能	楽典、音楽史、日本や世界の様々な音楽について理解を深めているか。
思考・判断・表現	音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、表現意図を持っているか。
主体的に学習に取り組む態度	計画的な学習の実践に意欲的に取り組んでいるか。

②評価方法

知識・技能	： 報告課題の評点をもとに評価
思考・判断・表現	： 中間試験（実技）、終末試験の評点をもとに評価
主体的に学習に取り組む態度	： 報告課題の提出状況をもとに評価

4 年間学習計画

報告課題・試験	単 元 名（指導内容）	提出期間
第1回	音符と休符、宗教音楽、伝統音楽・芸能、幹音と派生音	5.1- 5.22
第2回	音符と休符、音楽史、協奏曲、音楽用語、音名	6.17- 6.26
第3回	拍子、音符と休符、音楽史、アメリカの音楽	7.20- 7.29
第4回	音程、音楽用語、音楽史、実技試験曲、交響曲	9.18- 9.27
第5回	音程、音楽史、諸外国の音楽、日本の音楽	11.10-11.19
第6回	音楽用語・記号、音部記号と譜表、楽器の分類、演奏形態、日本の楽器	1.6- 1.15
中間試験	歌唱実技「Amazing grace」（教科書46ページ）	
終末試験	通教YUHO第3号「終末試験の範囲と要点」参照	

5 学習の進めかた

○報告課題は、自学自習によって解答にたどり着くことができるように作成してあります。教科書と解説をよく読んで取り組みましょう。また定められた提出期限内に提出するように意識しましょう。

○音楽は本来、紙面の上だけで学ぶものではありません。自ら様々な音楽に耳を傾け、ときには歌ったり、楽器を奏で楽しむ機会を大切にしてください。面接指導には最低面接時間数にかかわらず、できるだけ多く出席することが望ましいです。

令和6年度 北海道有朋高等学校 通信制課程 シラバス	【科 目】 美 術 I	単位数：2単位
教科書：高校生の美術1（日本文教出版）		
学習書： (有) ・ 無	入門書： 有 ・ (無)	補助教材： 有 ・ (無)
試験：実技一回——筆記一回	報告課題： 全 6 回	最低面接時間数 8 時間

1 学習の到達目標

- ①美しいものに感動する心と美の本質を追求する態度を養う。
- ②基礎的な表現方法の理解とその習得によって自己の美を具現化する。

2 科目の特色

美術Ⅰは表現と鑑賞の活動によって学習を進めます。表現は絵画、彫刻、デザイン、映像メディア表現の分野に分かれ、それぞれに多様な表現方法を学びます。

3 評価の観点・方法（年間の評価）

① 評価の観点

知識・技能	創造的な表現のための必要な技能を身に付け、表現方法を工夫しているか。美術作品の特徴的な表現や美術文化を幅広く理解し、その良さや美しさを創造的に味わっているか。
思考・判断・表現	感性や想像力を働かせて主題を生成し、創造的な表現の構想を練っているか。
主体的に学習に取り組む態度	創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心をもち、主体的に表現や鑑賞の活動に創造的に取り組んでいるか。

② 評価方法

- 「知識・技能」：報告課題の筆記と実技により評価します。
- 「思考・判断・表現」：報告課題の実技により評価します。
- 「主体的に学習に取り組む態度」：報告課題の提出状況によって評価します。
- 「その他」：学習が不振である場合、個々に特別課題が与えられる。

4 年間学習計画

報告課題・試験	単 元 名（指導内容）	提出期間
第1回	筆記課題～絵画（描画材料、デッサン）教 130～133P 実技課題～絵画（表情のある手を描く～鉛筆デッサン）教 133P	5.1－5.22
第2回	筆記課題～デザイン（デザインについて、色彩について）教 68～91、152～154P 実技課題～デザイン（色彩の基礎～10色相環と明度対比の着色）教 153・154P	6.19－6.28
第3回	筆記課題～絵画 教 6～55、134、136～142P 実技課題～絵画（身近な物を描く～水彩による静物画）教 6～12、134、136～142P	7.21－7.30
第4回	筆記課題～彫刻 教 56～67P 実技課題～鑑賞（野外立体作品の撮影とレポート）教 56、62、63、92～95P	9.20－9.29
第5回	筆記課題～絵画（版画 版画の技法）教 32～39、144P 実技課題～絵画（一本の樹を題材に木版画を作る）教 144P	11.12－11.21
第6回	筆記課題～映像メディア表現、映像メディア史 教 92～101、125～126P 実技課題～映像メディア表現（棒人間の30コマパラパラアニメ）教 148P	1.6－1.15
中間試験・終末試験	報告課題における実技課題をもって代替	

5 学習のすすめかた

- ① 報告課題の解説、教科書をよく読み、報告課題に取り組みます。
- ② **面接では必要な用具を準備・持参してください。**解説（3頁 必要な用具）参照のこと。
- ③ 報告課題の筆記課題と実技課題の両方を灰色の包装紙で丸めて提出します。
- ④ **報告課題の筆記課題解答欄に一つでも空白がある場合や実技課題の内容を理解していない場合（指定外用具使用等）や、解答の不備（着色や技法選択の不足等）があると再提出になりますので注意してください。**

令和6年度 北海道有朋高等学校 通信制課程 シラバス	【科 目】 美 術 II	単位数：2単位
教科書：高校生の美術2（日本文教出版）		
学習書： 有 ・ 無	入門書： 有 ・ 無	補助教材： 有 ・ 無
試験：実技一回——筆記一回	報告課題： 全 6 回	最低面接時間数 8 時間

1. 学習の到達目標

- ①美しいものに感動する心と美の本質を追求する態度を養う。
- ②応用・発展的な表現方法の理解とその習得によって、より個性的で創造的な美の創出や発見に努める。

2. 科目の特色

美術Ⅱは表現と鑑賞の活動によって学習を進めます。表現は絵画、彫刻、デザイン、映像メディア表現の分野に分かれ、それぞれに多様な表現方法を学びます。

3. 評価の観点・方法（年間の評価）

①評価の観点（評価は次の3つの観点から行います）

知識・理解	創造的表現に必要な技能を身に付け、主題を適切に表現する工夫に努めているか。また作品個々の特徴や人々への影響力を理解し、柔軟で多様な視点のもとで美術文化を味わっているか
思考・判断・表現	感性や想像力を働かせ、自然・自己・社会を深く見つめて主題を生成し、創造的表現に結びつくよう努めているか。
主体的に学習に取り組む態度	創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心をもち、主体的かつ個性豊かに表現や鑑賞の活動に取り組んでいるか。

②評価方法

- | | |
|-----------------|----------------------------|
| 「知識・理解」 | ：報告課題の筆記と実技により評価します。 |
| 「思考・判断・表現」 | ：報告課題の実技により評価します。 |
| 「主体的に学習に取り組む態度」 | ：報告課題における実技課題をもって代替する。 |
| 「その他」 | ：学習が不振である場合、個々に特別課題が与えられる。 |

4. 年間学習計画

報告課題・試験	単元名（指導内容）	提出期間
第1回	実技課題～絵画（動物又は植物のある風景を水彩で描く）教P4～13 筆記課題～（観察と表現、描画材と表現、主題と表現）教P4～13	5.1～5.22
第2回	実技課題～絵画（現代技法を用いてシュールな世界を表現する）教P2～5, 14～37 筆記課題～「思考と感覚の冒険 近代以降の美術表現」P14～17, 29, 60～62	6.17～6.26
第3回	実技課題～映像メディア表現（組み写真で表す）教P54～55 筆記課題～映像メディア表現」の写真について教P4～5, 52～55	7.20～7.29
第4回	実技課題～映像メディア表現（有朋高生の4コマ漫画）教P.56～57 筆記課題～（オリエンテーション、ストーリーとデザイン、アニメーション） 教P18～19, 20, 32～33, 56～59	9.18～9.27
第5回	実技課題～「デザイン（シルクスクリーン風Tシャツのデザイン）」教P31,P40～51,66 筆記課題～「絵画/デザイン（版の表現）」「言葉を超えて」「情報を伝えるデザイン」「デザインがもたらす統一感」「シルクスクリーンでTシャツをつくる」教P31～32, 40～49, 66	11.10～11.19
第6回	実技課題～デザイン／絵画（通教YUHOの表紙の原画を創作する） 筆記課題～（人物彫刻、動物彫刻、グラフィックデザイン、機能とデザイン、社会とデザイン）教P34～39, 40～47, 68, 76	1.6～1.15
中間・終末試験	報告課題における実技課題をもって代替	

5. 学習のすすめかた

- ①報告課題の各回の解説と関連する教科書のページをしっかりと読んでから報告課題に取り組みます。
- ②面接指導には必要な用具を準備・持参してください。裏のページ（3㊦ 必要な用具）の表を参照のこと。
- ③報告課題の筆記課題と実技課題の両方を灰色の包装紙で丸めて提出します。（折り曲げないこと）
- ④報告課題の筆記課題解答欄に一つでも空白がある場合や、実技課題の内容を理解していない場合や（指定外用具使用等）、解答の不備（着色や技法選択の不足等）があると再提出になりますので注意してください。

令和6年度北海道有朋高等学校 通信制課程 シラバス		【科 目】 書道 I	
単位数 2単位	教科書： 書道 I (東京書籍)	学習書・入門書・補助教材：(有)・ 無	
試験：———回	報告課題： 6 回	最低面接時間数 : 8	

1 学習の到達目標

- 書道の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てます。
- 書写の能力を高めるとともに表現力や鑑賞の基礎的な能力を伸ばします。

2 科目の特色

- 「表現すること」(書くこと)が主体となります。
- 様々な書に触れることで書に対する理解の幅を広げ、書写技能を高めます。

3 評価の観点・方法(年間の評価)

① 評価の観点(評価は次の3つの観点から行います)

知識・技能	書の表現の方法や多様性について幅広く理解している。 書写能力を向上させるとともに書の伝統に基づき作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身につけて表している。
思考・判断・表現	書の良さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し、表現を工夫したり、書の美を味わい捉えたりしている。
主体的に学ぶ姿勢	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

② 評価方法

- I R (レポート) : 報告課題(筆記と実技)と添削指導
- II S (面接) : 面接指導
- III T (テスト) : 報告課題における実技課題をもって代替

4 年間学習計画

報告課題・ 試験	単元名(指導内容)	提出期間
第1回	楷書の学習 1 「牛橛造像記」	5. 1- 5. 22
第2回	楷書の学習 2 「自書告身」	6. 17- 6. 26
第3回	楷書の学習 3 「雁塔聖教序」	7. 20- 7. 29
第4回	行書の学習 1 「蘭亭序」	9. 18- 9. 27
第5回	行書の学習 2 「風信帖」 仮名の学習	11. 10-11. 19
第6回	漢字かな交じりの書の学習 1 篆刻の学習	1. 6- 1. 15
中間試験	報告課題における実技課題をもって代替します。	
終末試験	報告課題における実技課題をもって代替します。	

5 学習のすすめ方

- 教科書、学習書、解説書をよく読み学習に臨みましょう。
- 面接に出席する時は、事前に報告課題(レポート)を取り組んでから出席すると理解が深まるでしょう。
- ちょっとした疑問など、報告課題の質問感想欄を利用して質問しましょう。

令和6年度 北海道有朋高等学校 通信制課程 シラバス		【科 目】 書道Ⅱ	
単位数 2単位	教科書： 書道Ⅱ (東京書籍)	学習書・入門書・補助教材：有・ 無	
試験：——回	報告課題： 6 回	最低面接時間数 : 8	

1 学習の到達目標

- 書道の創造的な活動を通して、書を愛好する心情を育てます。
- 書の文化や伝統についての理解を深め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばします。

2 科目の特色

- 「表現すること」（書くこと）が主体となります。
- 古典に触れてその良さを味わいながら特徴をとらえ、表現技法を高めます。
- 題材についてのねらいを明確にし、創造的な表現に取り組みます。

3 評価の観点・方法（年間の評価）

① 評価の観点（評価は次の3つの観点から行います）

知識・技能	書の表現の方法や多様性について幅広く理解している。 書写能力を向上させるとともに書の伝統に基づき作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身につけて表している。
思考・判断・表現	書の良さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し、表現を工夫したり、書の美を味わい捉えたりしている。
主体的に学ぶ姿勢	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

② 評価方法

- I R（リポート） : 報告課題（筆記と実技）と添削指導
 II S（面接） : 面接指導
 III T（テスト） : 報告課題における実技課題をもって代替

4 年間学習計画

報告課題・試験	単元名（指導内容）	提出期間
第1回	楷書の学習 「張猛龍碑」	5. 1- 5.22
第2回	行書の学習 「温泉銘」	6. 19- 6.28
第3回	草書の学習 「書譜」	7. 21- 7.30
第4回	隸書の学習 「礼器碑」	9. 20- 9.29
第5回	漢字仮名交じりの書の学習 1 古典を生かした創作表現	11. 12-11.21
第6回	漢字仮名交じりの書の学習 2 ことばのイメージを表現	1. 6- 1.15
中間試験	報告課題における実技課題をもって代替します。	
終末試験	報告課題における実技課題をもって代替します。	

※集中スクーリングでは「生活と書」、「篆刻」を実施します。

5 学習のすすめ方

- 教科書、学習書、解説書をよく読み学習に臨みましょう。
- 面接に出席する時は、事前に報告課題（リポート）を取り組んでから出席すると理解が深まるでしょう。
- ちょっとした疑問など、報告課題の質問感想欄を利用して質問しましょう。

令和6年度北海道有朋高等学校 通信制課程 シラバス		【科 目】 書道Ⅰ（連携）	
単位数 2単位	教科書： 書道Ⅰ （東京書籍）	学習書・ 入門書 ・補助教材： 有 ・無	
試験：——回	報告課題： 6 回	最低面接時間数 : 8	

1 学習の到達目標

- 書道の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てます。
- 書写の能力を高めるとともに表現力や鑑賞の基礎的な能力を伸ばします。

2 科目の特色

- 「表現すること」（書くこと）が主体となります。
- 様々な書に触れることで書に対する理解の幅を広げ、書写技能を高めます。

3 評価の観点・方法（年間の評価）

① 評価の観点（評価は次の3つの観点から行います）

知識・技能	書の表現の方法や多様性について幅広く理解している。 書写能力を向上させるとともに書の伝統に基づき作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身につけて表している。
思考・判断・表現	書の良さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し、表現を工夫したり、書の美を味わい捉えたりしている。
主体的に学ぶ姿勢	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

② 評価方法

- I R（レポート） : 報告課題（筆記と実技）と添削指導
- II S（面接） : 面接指導
- III T（テスト） : 報告課題における実技課題をもって代替

4 年間学習計画

報告課題・ 試験	単元名（指導内容）	提出期間
第1回	楷書の学習 1 「牛橛造像記」	4. 28- 5. 17
第2回	楷書の学習 2 「自書告身」	6. 9- 6. 18
第3回	楷書の学習 3 「雁塔聖教序」	7. 12- 7. 21
第4回	行書の学習 1 「蘭亭序」	9. 3- 9. 12
第5回	行書の学習 2 「風信帖」 仮名の学習	10. 29-11. 7
第6回	漢字かな交じりの書の学習 1 篆刻の学習	12. 6-12. 15
中間試験	報告課題における実技課題をもって代替します。	
終末試験	報告課題における実技課題をもって代替します。	

5 学習のすすめ方

- 教科書、学習書、解説書をよく読み学習に臨みましょう。
- 面接に出席する時は、事前に報告課題（レポート）を取り組んでから出席すると理解が深まるでしょう。
- ちょっとした疑問など、報告課題の質問感想欄を利用して質問しましょう。